

子どもたちの明日のために
今、できること



<主催・お問い合わせ> びわこ☆1・2・3キャンプ実行委員会

TEL:077-586-0623 FAX:077-586-1403

E-mail:kurashi1841@nifty.com (暮らしを考える会内・藤本)

<https://www.facebook.com/Biwako123camp?fref=ts>

びわこ☆1・2・3キャンプ

報告会 in 2018 春・夏

みなさまのご支援・ご協力により、今年もキャンプが無事に終了致しました。この度、下記の通り報告会と写真展を開く運びとなりました。飯館村から避難された方のお話会もあります。多数のご来場をお待ちしております。

日時：2019年2月10日(日) 10:00 開場

場所：旧大津公会堂 2階 多目的室

大津市浜大津 1-4-1 ☎ 077-522-8220

京阪京津線 浜大津駅徒歩1分 または JR 琵琶湖線 大津駅 徒歩10分

参加は無料ですが、カンパをお願いできると嬉しいです。

* 写真展

10:00 ~ 16:00

* 2018 年度キャンプ報告会

13:30 ~ 14:00

ボランティア・スタッフから
キャンプでの子どもたちの様子や
思い出を話します。

* DVD 上映

10:30、11:00、11:30

(DVD は、村上日苗さんの飯館村での暮らしと、避難されてからの記録です。お話の中でも上映します。)

* 村上日苗さんのお話

14:00 ~ 15:30

演題「までいに生きる」

村上日苗さんのプロフィール

福島県飯館村で自給自足の暮らし、自然農、農家民宿、石窯パン工房、マクロビオティック・レストラン「なな色の空」を営む。

2011年、東日本大震災により、三重県伊賀市に避難、自然農業再開。2014年から三重県で保養キャンプを開催。2016年京都府京田辺市へ移り、昨年自然食品店「なな色の空」と穀物菜食のこどもクッキングクラスを始める。4児の母。

びわこ☆1・2・3 キャンプ in 2018 春 (第16回)

実施期間：2018年3月24日(土)～4月4日(水)

宿泊施設：白藤学園マキノ研修センター(滋賀県高島市マキノ町新保 1132)

参加人数：57名(未就学児2名,小学生41名,中学生8名,高校生3名,
成人1名,保護者2名)

びわこ☆1・2・3 キャンプ in 2018 夏 (第17回)

実施期間：2018年7月22日(日)～8月24日(金)

宿泊施設：7/22(土)～8/1(水) 白藤学園マキノ研修センター(同上)

8/1(水)～8/24(金) 日本フィンランド学校
(滋賀県大津市新免 2-10-1)

参加人数：87名(未就学児2名,小学生53名,中学生16名,高校生5名,
成人1名,保護者10名)

春、良いお天気でした!!それも暖かくて昨春とは大違いのお天気に恵まれたキャンプでした。子どもたちは一日中野草摘みに出かけたり、自転車を走らせたり、ボールを追いかけたり、鬼ごっこをしたりと、体力のすべてを使って遊んでいました。そして昨春からボランティアをしてくれているキャンプ出身の高校生たちはますますボランティアぶりが板につき、その姿を覗いている中学生、小学生までもがいずれはと心に秘めてくれている様子でした。キャンプ2日目、つくし摘みをしていた時に、このキャンプに初めて来てくれた小4の女の子が「ずっと前からこのキャンプに来てみたい」ってつぶやいてるのを聴いて、初めて来てくれた子がこんなふう感じてくれたこと、何回も来てくれている子が第二の故郷だと言ってくれること、嬉しかったです。

夏、キャンプ前に、大雨、地震、新幹線内の事件等、不安を抱えながらのスタートでした。が、何よりも怖かったのは熱中症でした。外遊びを思いっきりしてもらうのが何よりもキャンプの目的なので、ずいぶんと心配しました。それも今回は今までで最長の34日間。よくがんばりました。特に若いボランティアさんは、子どもの無限の体力にヘトヘトになりながら、子どもたちに最大限の注意をはらってくれ、子どもたちもその想いを汲んでくれたのか、子どもながらに気遣う姿が見られ微笑ましかったです。最初から最後までずっと参加していた子どもたちは小学1年生から中学生まで29名、助け助けられ、でっかい家族でした。その時々で喜怒哀楽いろいろあったでしょうが、どの子も名残惜しそうに帰って行きました。

この先、子どもたちがどんな人生を歩くかわかりませんが、その中でこのキャンプで過ごした日々をフッと思い出してくれたら嬉しいです。そして願わくはこれから出遭うであろう幾多の壁を乗り越える力になってくれたならこんなに幸せんことはありません。

たくさんの皆様のお力添えをいただき、2018年の春夏キャンプが無事に終えられたことに心から感謝しています。ありがとうございました。

保養キャンプとは?

原発事故等、放射能に汚染された地域の人たちが、休日などを利用して被ばくの不安から一時的に離れ、心身の疲れを癒す取り組みです。チェルノブイリの経験からも、放射能の影響があまりない地域で一定期間過ごすことによって、体内に溜まった放射性物質を排出したり、免疫力を高めたりするうえで、たいへん有効な取り組みであることが知られています。

びわこ☆1・2・3 キャンプって?

福島第一原発の事故による放射能の不安の中で生活している子どもたちに、思いっきり自然の中で遊んでほしいと思い、2012年の春から保養キャンプを始めました。春休みに約10日間、夏休みに約1ヶ月間、40人前後の子どもたちとボランティアが大きな施設を借りて共同生活を送り、今夏17回目を開催しました。

キャンプでは、特に、子どもたちの心身の健康や成長のために欠かせない、十分な外遊びの時間を設けるとともに、健康増進のため、放射能汚染の心配がなく、農薬や添加物をできるだけ使っていない体にやさしい食材を使った、バランスの良い食事を提供しています。



<ご支援・ご協力のお願い>



日本では国による子どもたちの保養事業が整備されていないため、びわこ☆1・2・3 キャンプはみなさまからのご支援と助成金で運営しています。

宿泊費、交通費などをみなさまのご支援でまかない、被災者の方々の負担を軽減したいと考えております。

どうぞご協力いただけますよう、お願いいたします。

【カンパ振込先】

ゆうちょ銀行

振替口座記号番号 00910-1-256985

加入者名 びわこ☆1・2・3 キャンプ実行委員会

(ビワコ ワン ツー スリー キャンプ ジッコウイインカイ)

一口 1000円(何口でも感謝です!)



2018年度のびわこ☆1・2・3 キャンプの事業は、
大同生命ビジネスパーソンのボランティア活動助成、ドコモ市民活動助成事業、
近畿ろうきん NPO アワード、大阪コミュニティ財団「柏岡精三記念基金」、
子ども被災者支援基金、京都新聞社会福祉事業団、
滋賀県被災者交流支援事業、滋賀県職員互助会地域社会活動提案事業の助成と
国際ソロプチミスト近江八幡の支援を受けて取り組んでいます。